

本間久雄のワイルド研究  
—— 昭和時代（戦後） ——

佐々木 隆

2007年10月

日欧比較文化研究 第8号

日欧比較文化研究会

部) を出版。

昭和 33 年(1958) 3 月 『續明治文学史』(中巻)(東京堂) を出版。

昭和 39 年(1964)10 月 『續明治文学史』(下巻)(東京堂) を出版。

昭和 46 年(1971) 2 月 『英語青年』(第 116 巻第 14 号) に「追憶断片——『柘榴の家』のこと」を發表。

昭和 48 年(1973) 9 月 『英学史研究』(第 6 号) に「所謂『世紀末』」を發表。

昭和 49 年(1974) 4 月 『英語青年』(第 120 巻第 1 号) に「Oscar Wilde の一書簡」を發表。

昭和 49 年(1974)11 月 『実践英文学』(第 6 号) に「書齋閑話 一 画家メンピスをめぐりて——」を發表。

昭和 55 年(1980) 7 月 『実践英文学』(第 17 号) に「ワイルドのメンピス宛書簡について (二)」を發表。

戦後發表したものでは、昭和 23 年(1948)11 月 『欧州近代文学概説』(早稲田大学出版部)、昭和 32 年(1957) 5 月 『自然主義及び其の後』(早稲田大学出版部) についてもう少し見ておきたい。

『欧州近代文学概説』では「第 10 章 世紀末文学思潮」で、『ドリアン・グレイの絵姿』へ言及し、「第 12 章 英国の唯美派」でペイター、モリス、ワイルドについて論じている。

『自然主義及び其の後』では周遍的な内容として、「頹廢的傾向と自然主義の徹底的意義」「デカダン文学の非難に対する疑ひ」「谷崎潤一郎」「観照生活のこと」が所収されている。内容的にはいずれもこれまで發表したものである。

後述するが、中でも論文として發表されているメンピス書簡に関する研究は戦後の本間久雄のワイルド研究の大きな特徴とも言えるだろう。

## 2 研究指導者としての本間久雄

本間久雄は昭和 32 年（1957）に早稲田大学を退職し、その後、実践女子大学教授（1958—1962）、立正大学教授（1962—1974）を歴任することとなる。特に、立正大学では大学院教授として、ワイルド研究者の指導にもあたり、ワイルドに関する博士論文の主査を務めた。おもな主査経歴等は以下の通りである。

昭和 37 年（1962）4 月 立正大学教授。

昭和 41 年（1966）4 月 立正大学大学院文学研究科委員長（～昭和 46 年 3 月）

昭和 42 年（1967） 平井博「オスカー・ワイルドの生涯」（博士論文）の主査を務める。

昭和 44 年（1969） 鍋島能弘「文体美学——批評の一方法として——」（博士論文）の主査を務める。

昭和 47 年（1972） 金田真澄「ワーズワースの詩の変遷——ユートピア喪失の過程——」（博士論文）の主査を務める。

昭和 48 年（1973） 小倉皐「仮面の真理——ポーズの作家 オスカー・ワイルド——」（博士論文）の主査を務める。

昭和 49 年（1974） 山脇百合子「エリザベス・ギャスケル研究」（博士論文）の主査を務める。

昭和 49 年（1974）3 月 立正大学退職

特に、平井博は日本を代表するワイルド研究者としてその後、活躍している。

## 3 書簡研究

ワイルドの書簡研究は、世界的に見てもワイルド研究の一分野として脚光を浴びてきたのはそれほど新しくはない。ここでは *De*

*Profundis* を除いたものを取り扱う。まず書簡研究を支えるワイルドの書簡集の出版状況を見てみよう。

Rothenstein, John, editor. *Sixteen Letters of Oscar Wilde*.  
Coward-McCann, 1930.

Hart-Davis, Rupert, editor. *The Letters of Oscar Wilde*. R.  
Hart-Davis, 1962.

Hart-Davis, Rupert, editor. *Selected Letters of Oscar Wilde*.  
Oxford University Press, 1979.

Hart-Davis, Rupert, editor. *More Letters of Oscar Wilde*. J.  
Murray, 1985.

*The Complete Letters of Oscar Wilde*. Henry Holt & Co., 2000.

次に本間の書簡研究の状況を見てみたい。

昭和 49 年(1974) 4 月 『英語青年』(第 120 巻第 1 号)に「Oscar Wilde の一書簡」を發表。

昭和 49 年(1974)11 月 『実践英文学』(第 6 号)に「書斎閑話 一 画家メンピスをめぐりてー」を發表。

昭和 54 年(1979)12 月 日本ワイルド協会創立 5 周年：講演「ワイルドと Menpis」(於：学習院大学)

昭和 55 年(1980) 7 月 『実践英文学』(第 17 号)に「ワイルドのメンピス宛書簡について (二)」を發表。

日本におけるワイルドの書簡研究は本間を除くと、大川裕の書簡に関する注釈書や研究論文がある。単純にワイルドの書簡の紹介というのであれば、明治 44 年(1911)3 月の樋渡正一『今日の書面』(富田文陽堂)に「ワイルドのシェラードに答へた書面」(1854 年 4 月

16日ホロウエイにて)が最も初期のものである。昭和47年3月の『ボジーへの手紙』(学書房)、平成元年(1989)3月の「ワイルドとダグラス——書簡からみた2人の交友——1——」(『英文学論叢』第37号、日本大学英文学会)、平成2年(1990)3月の「書簡からみたワイルドとボジー交友」(『日本大学人文科学研究所研究紀要』第39号、日本大学人文科学研究所)、平成6年(1994)6月の『美の冒険と殉教』等がある。大川はワイルドとダグラスとの関係を書簡を通して再考したのに対し、本間はモーティマ・ルディングトン・メンピス(Motimer Luddington Menpes, 1855-1938)に注目したのである。メンピスはジェイムズ・アボット・マクネイル・ホイッスラー(James Abbott McNeil Whistler, 1834-1903)の弟子で、彼の肖像を描いている。また、ワイルドの第2子ヴィヴィアン・ホランド(Vyvyan Holland, 1886-1967)の名づけ親になっているなど、親交の深さが感じられる。本間が取り組んだのは *The Complete Letters of Oscar Wilde* (2000) にも収録されていないメンピス宛の書簡研究であった。これは現在、実践女子大学図書館に所蔵されている。平成16年(2004)1月13日～2月28日に「ワイルド直筆書簡展」として公開された。(4)

#### 4 日本ワイルド協会と本間久雄

日本ワイルド協会は昭和50年(1975)12月6日に設立を記念して「公開座談会と映画の会」を明治大学大学院研究所講堂で開催した。設立当時のおもな役員は顧問に本間久雄、矢野峰人、平井博。会長に西村孝次。理事に井村君江、小野二郎、川崎淳之助、佐藤喬。幹事に荒井良雄、三好弘、五島正一郎という構成であった。本間が博士論文の主査を務めた平井博の名前もここに見られることは注目に値する。設立当時の様子については平成7年(1995)12月発行の『ワイルド ニュース・レター』(創立20周年記念号)がよい参考となる。初代会長の西村孝次以後、小倉多加志、井村君江、川崎淳之助、

荒井良雄、山田勝、澤井勇、玉井暲を経て、現在は河内恵子である。  
現在(2007年8月現在)の役員は以下の通りである。

会 長：河内恵子

副会長：貝嶋崇、原田範行

理 事：阿佐美敦子、岩永弘人、貝嶋崇、金田仁秀、河内恵子、  
坂本光、佐々井啓、新谷好、鈴木英明、玉井暲、角田信  
恵、原田範行、富士川義之

会員は約90名である。現在、日本ワイルド協会の活動は秋の大会を中心  
に、年1回『オスカー・ワイルド研究』の発刊となっている。

(日本ワイルド協会については、ホームページ  
<http://www.hc.keio.ac.jp/wilde/>が詳しい。)平成7年(1995)に創  
立20周年を迎えた日本ワイルド協会は、設立当時から20年をまと  
めた『ワイルド ニュースレター』(創立20周年記念号)を発行、  
平成9年(1997)には当時の山田勝会長を中心に協会が全面協力した  
世界初の事典、『オスカー・ワイルド事典』(北星堂書店)も没後100  
年の記念事業のひとつである。記念事業は没後100年にあたる平成  
12年(2000)の日本ワイルド協会の活動は、協会としても積極的であ  
るが、各会員がワイルド研究書を意欲的に出版している。また、元  
会長の澤井勇の実践女子大学図書館には、ワイルドの資料を収集し  
た本間久雄のコレクションがあることも付け加えておきたい。

## エピローグ

本間久雄は明治、大正、昭和の三時代に渡り日本のワイルド研究  
を支えて来た日本を代表するワイルド学者である。戦前にはこれま  
での研究とイギリス留学の成果をまとめた『英国近世唯美主義の研  
究』を発表した。

本間は学者として、研究者として一流であったばかりでなく、教育者としても若きワイルド研究者を育てるなど、その活躍振りは目を見張るばかりだ。さらに、昭和50年(1975)12月には世界で初めてのワイルド専門学会、日本ワイルド協会が設立され、顧問に就任している。本間はその6年後の昭和56年(1981)6月11日に逝去。享年94歳であった。平成18年(2006)には本間久雄没後25年を迎え、本間久雄のワイルド研究と『明治文学史』については今後のさらなる再評価が待たれるところである。

## 注

- (1) 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究——明治時代——」(『異文化の諸相』第26号、2005年12月)
- (2) 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究——大正時代——」(『日欧比較文化研究』(第6号、日欧比較文化研究、2006年4月)
- (3) 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究——昭和時代(戦前)——」(『日欧比較文化研究』(第7号、日欧比較文化研究、2006年10月)
- (4) 「ワイルド直筆書簡展」(<http://www.jissen.ac.jp/library/image.minitenji/2003/200401.pdf>) で見る事が出来る。

## 参考文献

- 『会報』(第1号～第3号) 日本ワイルド協会, 昭和51年1月～昭和57年4月。
- 高津久美子「小伝」(『英語青年』第127巻第7号, 昭和56年10月)。
- 『WILDE NEWSLETTER』(創立20周年記念号) 日本ワイルド協会, 平成7年12月。
- 大学史編纂委員会編『立正大学の120年』立正大学学園, 平成4年10月。

清水義和『ショー・シェークスピア・ワイルド移入史』文化書房博  
文社，平成 11 年 3 月。

キーワード：本間久雄、ワイルド、日本ワイルド協会